

IT21の会（平成20年3月）第118回議事録

日 時：平成20年3月7日(金) 18時30分～20時40分

場 所：日本技術士会 葦手第二ビル 5階A・B会議室

出席者：13名

配布資料

- ・ 0803-0 C P D行事参加表（出席図）
- ・ 0803-1 学生の立場から見たIT技術者養成の一考察（尾崎 健一郎氏）
- ・ 0803-2 平成19年度技術士第二次試験統計
- ・ 0803-3 I T 2 1の会 K A I Z E N・W G経過及び成果報告書（加納 幸博氏）

議事

1. 議事および資料確認 廣瀬 由紀氏

2. 連絡事項 廣瀬 由紀氏

(1)第二次試験合格者祝賀会と勧誘協力について

技術士会本部主催の祝賀会（4月19日）にはIT21の会から広報委員が出席して新会員の勧誘を行う。各部会主催の祝賀会については、それらに参加した会員が各々勧誘活動を行うことをお願いしたい。パンフレットはIT21の会ホームページにあるPDFファイルを各自ダウンロードしてご使用願いたい。

(2) 4月以降の例会予定について

4月例会（日時：4月26日 14:30 会場：大田区産業プラザ）

5月例会（総会）（日時：5月10日 13:30 会場：秋葉原 損保会館）

共に土曜日開催、時間と場所についても通常の例会とは異なることに注意されたい。

3. 学生の立場から見たIT技術者養成の一考察 尾崎 健一郎氏

尾崎氏は最近学生から人気がないIT業界が魅力を取り戻すには大学および大学院の教育の充実が不可欠であると考えている。現代の学生が教育について何を感じ、何を求めているかについて尾崎氏自身が東京理科大学 理工学部 情報科学科および東京理科大学大学院 理工学研究科 情報科学専攻 修士課程で学んだ6年間の実感と合わせて発表を行った。

まず、尾崎氏が履修した、学部4年間および修士課程2年間のカリキュラムについて紹介があった。専攻が情報工学ではなく、情報科学であるとのことで数学関連の授業が多い。また、プログラミングについてはJavaなどに加えて、関数型言語なども広く採用されているそうである。

次に、最近の就職活動について紹介があった。最近の特徴として、就職活動の時期が早いこと（いわゆる青田刈り）、理系では修士課程を修了してからの就職が一般的（7～8割）であることと、また、企業で一定期間仕事を体験するインターンシップへの参加者が多いことが挙げられた。インターンシップについては、実施する会社により、期間も業務体験の深さも大きく異なり、それに依りて学生の満足度に大きな差が見られるとのこと。インターンシップを単なる「社会見学」にしないために、インターンシップの意義を再検討すべきという

のが尾崎氏の意見である。青田刈りについては、経団連の「卒業学年に達しない学生の採用を厳に慎む」という倫理憲章も、特に大学院生には守られていないのが現状とのことで、学生に大きな負担であるようだ。

最後に、今後のIT教育に関する、尾崎氏からの提言があった。

企業に対しては、(1)青田刈りを止めるべき、(2)スペシャリストもゼネラリストも平等に、(3)インターンシップをただの社会見学にしない。

教育機関に対しては、土台のしっかりした技術者を育成すること。具体的には、(1)様々なプログラミング言語に触れさせる、(2)数学教育をしっかり行う、(3)進取の気風を醸成する、(4)研究成果を積極的に発信する。

そして、技術士会には、(1)教育機関との連携を密にする、(2)学生の一次試験受験を推進する、(3)学生の技術士会参加を推進する、(4)技術者と学生の交流を盛んにする。

以上の提言が、尾崎氏の考えるITの産官学をめぐる好循環を生み出す対策として、本講演は締めくくられた。

4. 質疑応答 尾崎 健一郎氏

多くの質問が参加者から寄せられた。たとえば、

(1)インターンシップの意義について

(2)尾崎氏の専門である情報科学と、情報工学の違いについて

(3)学生が成果主義の会社を判断する基準について

5. IT技術者養成についてのディスカッション 嶋田 弘憎氏

以下のように非常に活発な意見が参加者から寄せられた。

(1)IT不人気について

授業での実験が少なくなったのが原因では？

パソコンの普及が原因では？(ITは簡単なものと軽く見られている。)

ITに人気を取り戻すには大学教育の充実よりも、小中学校でのIT教育に力をいれるべきである。

文系出身者でもIT企業に進む者は多い(特にウェブ関連)。よって、ITの不人気と「理系離れ」は別と考えるべきである。

ブラックボックスの存在に気付かず、(全部わかったような気になって)技術の追求を忘れてしている。

(2)大学(院)の現状について、再度、尾崎氏に多くの質問が集まった。

産学協同を実地で学ぶ教育はあるか？

大学院に進む動機

どんな科目に人気があるか？

6. K A I Z E N - W G 経過及び成果報告 加納 幸博氏

6.1 KAIZEN-WGは本年1月度例会より発足し活動しているが現時点では以下の成果を確認している。

- (1)テストMLでは、現行MLで課題となっていたメールの大きな遅延は、現在は発生していない(現行MLではまだ5分程度の遅延がある。)
- (2)現行HPとMLを別個に管理されている煩雑さを解消すべく名簿->HP->ML間の会員情報の一元管理が可能な事を確認済み。
- (3)年間使用料が11000円から5000円に削減することが可能。
(HPとMLをCORESERVERに統一することで、CyberTradingの6000円を削減可能)
- (4)複数のMLの運用が可能なことを確認した。これにより役員専用等の別途用途広がった。
- (5)SNS等のオープンソースが活用可能なことも確認し、将来の会におけるコミュニケーションの広がり期待できる。

6.2 進捗報告及びお願い

- (1)プレ運用が遅延となった理由(機種依存文字による纏め読み機能の不具合)が報告された。
- (2)HP関連は現行HPの解析が完了し新HPへの移行手続きフェーズであると報告された。
- (3)現在試験運用中のSNSに多くの会員が参加していただきたい。このSNSを正式運用するかどうかは5月の総会で議論の場を設け、承認決議を行いたい。入会方法は以前WGからMLで紹介されたが、認知度が低いようなので、WGから再度MLにてお知らせする。(現行HPにおいて入会方法掲載も予定。)

以上(記載者:古瀬 勉)